

第2回 金沢区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	平成 27 年 3 月 23 日 (月) 13 時 00 分～14 時 00 分
開催場所	金沢区役所中庭 1 号・2 号会議室
出席者	選定委員：影山委員、新明委員、臺委員、長瀬委員、山岸委員、山中委員、渡辺委員 オブザーバー：吉田氏 (財務有識者) 事務局：川崎福祉保健センター担当部長、倉持福祉保健課長、塩田高齢・障害支援課長、小松高齢者支援担当係長、石井事業企画担当係長、櫻井事業企画担当職員 (記)
欠席者	なし
開催形態	公開 ※審査については非公開。
	<p>1 開会 倉持福祉保健課長より連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員 7 名中、7 名出席で過半数を超えているため、成立。ただし、渡辺委員は申請法人の理事であるため、審査に参加しない。</li> <li>・今回の議事録署名人は臺委員と長瀬委員にお願いしたい。</li> <li>・傍聴人の申込みはなし。</li> </ul> <p>2 財務状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 回金沢区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会と同様に、横浜市健康福祉局で実施した外部委託による評価指標 7 項目について分析したところ、横浜市金沢区社会福祉協議会は B 評価 (経営上の課題はあるが当面は問題ない) であった旨、石井福祉保健課事業企画担当係長より報告。</li> <li>・申請法人の適格性を確認するために、法人の租税納付及び雇用保険料等が滞納していないこと、暴力団またはその構成員の統制下にある法人ではないことを確認した旨、石井福祉保健課事業企画担当係長より報告。</li> </ul> <p>3 ヒアリング・審査 申請団体である横浜市金沢区社会福祉協議会のプレゼンテーション (20 分) 後、質疑応答 (15 分) を実施した。 委員：直近の経常収支が 2 期連続赤字となっており、これについて会長や理事は掌握しているのか、原因は何か、今後どのような対</p>

策をしていくのか、3点お聞きしたい。

申請法人：毎年3月に事業計画および予算、5月に事業報告および決算について、提出した資料をもって会長、理事、評議員に説明している。また経費がかかる事業を多く抱えているので、今後は会費の徴収などの収入財源について十分に力を尽くさなければならないこともその場で申し上げている。

原因については、地域の方に役立つのであれば、収益がなくても事業を実施する必要があると判断しているからである。

地域からの共同募金、善意銀行への寄付等の割合が安定しているので、その収支に合わせて事業規模の調整をする方向で、内部で話し合っている。しかし将来的には事業が拡大していかないということになってしまうので、財源については広く住民にも訴えさせていただきながら、活動の恩恵を受けている区内の活動団体の皆様とともに、共同募金の大切さや善意銀行の使い道等を広報・啓発していく計画を作っている。

委員：これまで地域が主体となって活動していくために、どのような工夫を行ったのか、今後はどのような点を強化していくのかお聞きしたい。

申請法人：地域福祉保健計画地区別計画（以下、地区別計画）は地域の課題を発見し、その解決のために住民がどう努力をして計画的に事業を進めていくかについて、地域の住民が参加して、区役所や地域ケアプラザと連携して作っている。その取組の視点は地域の皆様と地域の課題を発見し、課題の解決に住民自ら参加する、支援するという社会福祉協議会の基本理念である。地域福祉保健計画の策定のプロセスが社会福祉協議会の活動そのものである。住民の方々が、今自分たちの暮らしている地域をどう見て、どこをどう改善していくのか、地区別計画策定の中で、住民が参加する懇談会、意見交換会などを通して、地区別計画をパブリックコメントの形で地域に戻していくことで、プロセスを含めて住民主体の環境を作るかたちで進めている。

委員：金沢区災害ボランティアセンターが立ち上がり、大災害の時にボランティアの受入窓口としての機能があるが、泥亀地域ケアプラザなど他の法人が入っている施設であり、特別避難場所も兼ねているため、スペースが十分であるのか、足りなかった場合はどのあたりにスペースを設けようとしているのかお聞きしたい。

申請法人：具体的な場所については示していないが、検討しているところである。ご指摘いただいた課題については、昨年、災害ボランティアネットワーク、金沢区役所、横浜市金沢区社会福祉協議会の3者で協定を結んだ際にも課題となっており、当施設が津波被害地域に入っているのも、使えない場合、活動できる範囲内で第二の拠点としてどこかお願いしたいと区にも話をさせていただいている。毎年シミュレーション訓練としてコーディネートのロールプレイを区と地域ケアプラザの職員と実施しているが、場所が特別避難場所と隣り合わせになり、使い勝手があまりよくないという認識がある。またコーディネートができる人材が大事であるので、その育成をしているところである。

委員：災害当日のマニュアルについて十分整備されていないと感じており、災害の日時によっては特別避難場所の開設が難しいと思うので、もう少しマニュアルを丁寧に作り上げていってもらえないだろうか。

申請法人：同じ認識を持っているので、区役所あるいは災害ボランティアネットワークと調整させてもらえればと思う。

委員：事業計画書に記載されている財務状況について、平成25年度経常収入の41%を占める会費や寄付金以外の収入は具体的にどのようなものかお聞きしたい。

申請法人：委託費や補助金である。

委員：その下に南区内会員から募る会費とあるが、これはどのようなものか。

申請法人：南区ではなく金沢区が正しいので、訂正させていただく。

委員：それも含めて賛助金などで収入が見込めるということか。

申請法人：委託費や補助金が56%、他に委託事業での収入が3%ある。安定的に見込めるのは40%を占める共同募金財源や寄付金等で、今後そこをどう拡大していくか、どういった形で寄付金を集めるのが課題である。

共同募金の運動で実績をあげている山口県の共同募金会に出向している、ファンドレイジングの専門家と2年前から勉強会を開催していて、寄付金が自動で集まるようなグッズ開発等を勉強している。共同募金や寄付金以外で啓発を含めたファンドレイジングについて市社協と足並みをそろえて検討している。

委員：事業計画書に記載されている職員の配置・育成についての文中

にあるボランティア保険とはどのようなものか。

申請法人：全国社会福祉協議会が保険会社と一緒に作っているもので、ボランティア活動をする際の保険で、活動しているときケガをした、相手に損害を与えたときに保障するものである。また地震や津波の被災地へ出向くときの災害対策タイプの保険もあり、ボランティアを守る仕組みをつくり、窓口で受付をしている。

委員：同じく事業計画書にあるボランティアの育成・支援について、ボランティアに関心のない方に関心を持たせるためにどのように考えているか。

申請法人：第3期地域福祉保健計画策定に向けてのアンケート調査を通して、ボランティアをやりたいという人がとても多く、一歩踏み出すきっかけがない、どこに相談すればよいのか分からない、どうやって始めたらよいのか分からないといった課題があることが分かった。その結果に基づき、今ボランティアをやっている方からの口コミ、趣味の範囲内で無理なく参加できる環境を作ること、区民まつり等に出展して地域活動に参加してもらえるような取組を進めていきたいと思っている。

#### 4 審査結果

横浜市金沢区社会福祉協議会

合計評点 777/1200 評点率 64.75%

最低基準を満たしているため指定候補者とする。

委員長：今回の結果を踏まえ、横浜市金沢区社会福祉協議会を次期指定管理候補者として区長に推薦する。

委員長：各指定管理者に対して伝えたいこと等ありますか。

委員：連携をしている、連絡会を行っているといっても、顔見せ程度で終わっていることもある。法人には、もっと意識を持って取り組んでほしい。

委員：顔の見える関係づくりから、もう一歩踏み込んだ関係づくりに取り組んでほしい。

委員：今後5年間の運営を任せることになる。実際の利用者の声が反映できるシステムができればいいのだが。

#### 5 その他

倉持福祉保健課長より連絡事項

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正式な決定は、9月の市会での議決後となるが、その前に申請法人には事前に結果を伝える。</li> <li>・今回の第3期指定管理者選定委員会は一旦終了となるが、委員の任期は2年間であるので、この間に再度指定管理者の選定が必要となった場合は、委員に連絡する。</li> </ul>
資 料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第2回金沢区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会 次第</li> <li>2 横浜市金沢区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会名簿</li> <li>3 財務状況評価報告書</li> </ol>

上記の通り議事録を確認します。

署名人 喜 有 桂

署名人 長瀬 美鳥